

第274回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成23年1月24日（月）午後4時30分より
- 2 開催場所 新潟グランドホテル 会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
碓井 真史	委員	大久保 千春	委員
田村 明子	委員（リポート参加）		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
常務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長	竹石 尚史
報道制作局次長 兼 報道制作部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
合評番組プロデューサー	大橋 義宏
事務局 海津 智洋	紫竹 聡子
	水野 明子

4 議 題

1) 番組合評

「テレビ新潟開局30周年記念特別番組

『佐野藤三郎物語～大地に夢を見た男の新潟未来構想～』

〔放送 : 2010年12月30日(木) 13:30～14:25〕

(説明 : 番組プロデューサー 大橋 義宏)

2) 会社報告

①放送法等の一部を改正する法律成立

「放送番組の種別の公表」について。

(報告 : 編成局長・番組審議会事務局長 駒形 正明)

②BPO 放送倫理検証委員会決定

「参議院議員選挙に関わる4番組についての意見」について。

(報告 : 編成局長・番組審議会事務局長 駒形 正明)

③11月、12月の視聴者の意見。(報告 : 視聴者相談室長 海津 智洋)

④講じた措置、公表など定例の報告等。(報告 : 番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組は佐野藤三郎氏が亡くなられて15年が経ち佐野氏を知る人が少なくなっており、亀田郷から新潟を、新潟から日本を考えて未来の町づくりに活躍した佐野氏の歩いてきた軌跡・発想などを改めて紹介して広く県民に知ってもらうとともに、新潟の未来について考えてもらいたいと考えて制

作したものであること。今、新潟の人にもっと元気が欲しいと
考え、かつて新潟にこういう大きな発想を持った生きた人物が
いたということを知ってもらうことで、県民の皆さんに元気を
伝え、また元気を出してもらいたいと願って制作した番組であ
ることなどを報告した。

●佐野氏のことは知らなかったが、農業関係に詳しい祖父は一
緒に視聴して番組内容に大変共感していた。佐野氏を知ってい
る人には分かる言葉と歴史があるのだと思った。

●新潟にこういう人がいて、こんな活躍をされたということが
よくわかったし、事業を成し遂げるまでどんどん頑張っていく
姿がドラマのように面白くて飽きることなく見ることができた。

●佐野氏が国際的に活躍するようになってからは少しパワーダ
ウンしたように思った。具体的なエピソードがもっとあったの
ではないか。すこし不満に感じた。

●「誠心誠意腹を割ってぶつかれば必ずわかってくれる」とか
「佐野学校」と人が呼ぶようになったとか、「復旧より復興」と
いう言葉などが、見ている方に届いてくるとても良い言葉であ
り、それを実際に実行してきた人の生き様を見せてもらってと
ても良かった。

●「復旧より復興」として目指したものが、実際には具体的に
どういうことだったのかをもっと具体的に知りたかった。

●佐野氏のことは知らなかったが、全体として新潟を元気付け
るヒントになるような今日的な意義のある内容であり、今の新
潟のあり方を考える良い機会になる番組だと思った。

●若い頃に味わった悲しみや苦しみを通して「人のために命を

捧げる」という決意が決して上辺だけのものではないことが伝わってきた。それらのエピソードはその後の彼の行動、発言に誠実味と説得力を与えていたと思った。

●佐野氏をはじめて知ったということと、時代背景や当時の政治について理解不足のため、官僚と会って指導を受けたり折衝を重ねることで亀田郷土地改良区が借金を返せたり、田んぼが青々と美しくなったりした展開は、具体的経緯がいまひとつ分からず、なぜ？と疑問に感じた。

●新潟が抱える様々な問題が佐野氏の時代以降、時間が止まったかのように解決に向かわず、放置され、閉塞感が増しているような気がした。

●新潟県は農業県でありその農業技術は世界に誇れること、環日本海国際交流が新潟発展の要であることを改めて痛感した。この番組を通して佐野氏のやり残したことを少しでも推し進めていく契機が生まれたらと強く思った。

●佐野氏が官僚と交渉してその後土地改良区の借金問題などが解決したという結論がいきなり出てくる感じで、何があったのか分からない。難しい財政的なことや高度な政治的なことがあったにしても、そこにも人間ドラマがあったはずで、それが分からないため最後があっさりとしてしまった感じがした。

●今当たり前のように暮らしている新潟市の暮らしの中で、こんなに夢をもって努力をして頑張ったという歴史的内容は、中学校などの道徳や総合学習の時間の教材として最適だと思った。

●亀田郷を舞台に土に生きて新潟の未来を描き続けた情熱あふれる人物語になっていると思った。

● 3人のゲストの証言とともに写真や記録映像などをふんだんに用いて、苦しんで生きる人達のために生きるという信念や土への執着、人間としての懐の深さを良く浮かび上がらせていたと思った。鳥屋野潟開発を巡る田中角栄元首相との直談判など元秘書の話としてよく残っていたと思った。

● 「佐野学校」は官僚を動かしたという面で描かれていたが逆に農家・農村の実態を知るために佐野学校が出来たという面もあり、官僚側も役人の使命感があったという良いエピソードでもあると思った。

● 「復旧より復興」という言葉は「原型復旧から機能復旧へ」という意味で阪神大震災の時に皆で言っていた言葉だが、それ以前にこの言葉を使っていたのは興味深いと思った。

● 一つ一つのコーナーはとても重要な要素を持っており、それが逆に総花的な印象を与え焦点がぼやけてしまった感じがして大変もったいないと思った。

● 偉人伝として佐野氏をとりあげることが良いのかどうか百点満点の人は居ないわけで、美談に構成し過ぎた感じはした。

● 関係者のインタビューは説得力が無かった。佐野学校の説明も土地改良区側の人ではなくて旧大蔵省官僚側からコメントしてもらえると分かりやすかったのではないかと思った。検証は逆や反対側の立場の人から証言を得たら良かったと思った。

● 「農業を通じて世界と交流する」という主張に対して、現在亀田郷や新潟市、新潟県の人達は現実のTPPの問題などはどう考えるのか。この辺は素朴に疑問に思った。

● 昨年「食の新潟国際賞」を受賞した M.P.ジョーンズ氏の挨拶「私たちの多くはやりたいことを実現できないのが殆どだが、

佐野さんはリーダーとして目標を持ちそれを実現した数少ない人物だ」という言葉が的確に佐野氏を評しているコメントだと思った。

●黒龍江省三江平原の開拓などでは、佐野氏本人以外のまわりの人達の努力が見えて来ず、佐野氏だけの評価が出過ぎている感じがした。多くの人による事業が個人を崇拝するように特定の人物評価だけに終わってはならないと思った。

●佐野氏は新潟県の農業県としてのあり方をあれだけの潟を埋めて農業を中心とした県としての骨格を作り上げた人だと思った。

●環日本海を含め新潟の農業技術は最高だと思う。農業の隣国への技術貢献など国際センター構想も佐野氏の素晴らしい発想だと思うが、それらが現在の行政サイドを含めてきちんと受け継がれているかは疑問に感じる。先人がこれだけのことをやってきたんだということを今のリーダーシップを執っている立場の人は意識しておく必要があると思った。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

1 1月…… 138件。

1 2月…… 97件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成22年11月29日)から昨日(平成23年1月23日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置

- 1) 前回、第 273 回審議会では「ネイチャーアイランド サドラブ！」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。
- 2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第 274 回放送番組審議会の公表

- 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。
- 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3) インターネットの T e N Y ホームページに議事概要を掲載しました。

9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 11 月、12 月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 11 月、12 月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（12/3, 12/13, 12/23, 1/3 号）
- ・ BPO 報告（No. 91, 92 号）

以上